

引接寺（千本ゑんま堂）

[平安/北野-西陣]

仏教の世界観では、閻魔という神が冥界を支配し、死者の魂をさばいています。引接寺は閻魔を本尊として信仰しており、この場所が京都のまさに端であった 11 世紀からここに存在しています。この北には京都の墓地があったので、引接寺は生者の世界と死者の世界を分かち境界であると言われていました。

本堂には、高さ 2.4 メートルの閻魔像が安置されています。この閻魔像は 1488 年に彫られ、脇には閻魔に仕える司令尊と司録尊の像が安置されています。前者は、死者の生前の行い全てを記録した巻物を持っており、これが死者が冥界のどこに向かうのかを決めるのに使われます。「閻魔の日」である毎月 16 日にはこれらの像が公開され、住職は本堂の中で法要を行います。

引接寺は閻魔を生あるすべてのものを救う地蔵菩薩の別の姿と考え、両者を同じ神として扱うので、本堂の外、そして境内のいたるところに多くの地蔵の石像が建てられています。これらの一部は数百年前のもので、かつて墓地に向かう道沿いだった場所から発掘されたものです。